

うたい続けたい『西駒郷の歌』

企画調整課専門員 伊藤 敏

西 駒 郷 の 歌

唐沢正十 詞

伊藤久紀 曲

- 1 駒ヶ嶺高くそびえ立ち
流れはるかな天竜の
川辺に咲きてかおる花
友垣ここに集いたり
心の里よ西駒郷
- 2 われらが仲間わが友よ
のぞみ抱いて腕組めば
心に通う灯がともる
生きるよろこび明日がある
楽しき里よ西駒郷
- 3 松風の音さわやかに
夢は青空かけめぐる
自然の恵身にうけて
伸びよはばたけ手をとりにて
福祉の里よ西駒郷

平成30年11月15日、西駒郷開設50周年記念式典が盛大に開催され、私自身、久しぶりに『西駒郷の歌』を唄う機会が訪れました。心をひとつに体育館に響く、利用者・保護者・職員の声に誘われて、私も大きな声で唄いました。

詞もメロディーも親しみやすいこの歌は、かつて大運動会・にしこま祭等、全体行事や各部の集まりで必ず唄われていました。音楽好きな多くの利用者さんたちをはじめ、そこにいるみんなが、歌の持つ力にのせて、心をひとつにのびのびと唄っていたのを思い出します。

利用者500人と多くの職員がいる時代には、時々に入が入れ替わっていく中にあっても歌い継がれていましたが、時代の変化とともに年々入所利用者が

減り、同時に、皆が集まる全体での行事も減っていき、『西駒郷の歌』を唄い、親しむ機会は減りました。

今、開設50年の節目を迎えて、今一度この歌が生まれた背景を振り返ってみたいと思います。

○ きっかけは？

昭和43年開設以来、行事のうちに唄う歌は、県歌「信濃の国」だった。

開設6年目、誰からともなく『西駒郷の歌』を作ろうという声上がり、所内の制定委員会が発足、職員から歌詞・曲を募集することになった。その際「歌詞・曲ともに平明・簡潔・リズムカルで西駒郷の環境・めざすべき理念を歌いこんだ、格調の高さ」を内容の条件とした。

その結果、歌詞では20人の職員から27点、曲は7人から9点の応募があり、選考に際しては、歌詞では郷土在住の歌人松井忙人先生(故人)、曲では諏訪保育専門学校の保坂先生にご指導いただいた。

○ 作詞、作曲者はだれ？

作詞者は、長野県職員で、当時さつき寮寮長だった唐沢正十さん(昭和48年度から3年間在職、故人)。

内容についての記録が見つからず、私見となりますが、この西駒郷の地の豊かな自然環境を、鮮やかに描写しており、「友垣」「仲間」「のぞみ」「生きるよろこび」「伸びよはばたけ」などのことばに、ここで日々を送る利用者への思いや背景と職員・家族の願いが込められていることがとてもよく伝わってくる。

作曲者は、長野県社会福祉事業団職員で当時の生業部作業科担当の伊藤久紀さん(昭和45年4月から17年間在職、故人)。

伊藤さんは、作曲するにあたり「通勤の車中で詩を覚え、日本語としてのアクセントで読むことによってメロディーが浮かぶが、一貫したメロディーや音楽形式にまとめるには容易ではなかった。夜遅くまでピアノに向かったこと、床に就いてからメロディーが浮かぶと忘れないうちにメモした。」と語っておられた。

伊藤さんの就任当初、さつき寮・まつば寮は未完成で工事中だったため、「着任して数か月は、利用者といっしょに大小さまざまな石を掘り起して整地し、多くの植樹をした。」と、地下足袋を履いた10人余りの、体力ある利用者さんとの写真を見せて下さった。

まさに、西駒郷を利用者のみなさんといっしょに汗を流して造ってきた方だけに、利用者への優しさや思いやりを込めた熱い気持ちで曲を作り上げた

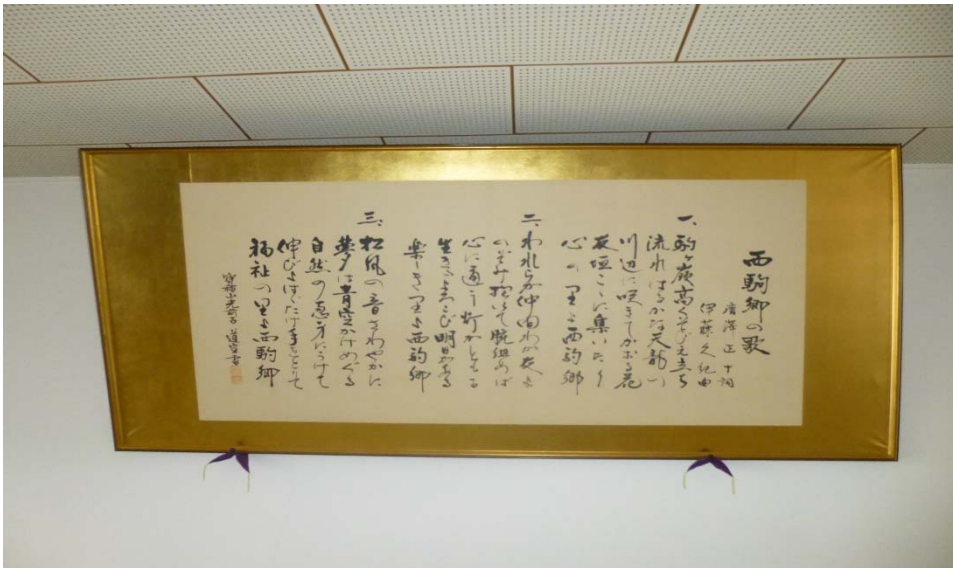
のではなかったか。温かみのある曲調に、それが感じられる。

当時、みんなで集まった時に、この曲を必ず唄うことは当たり前のことで、深く考えたことはありませんでした。しかし、今回改めて、ともに唄い、ひもといてみれば、明るいメロディーに声を合わせた利用者の、それぞれの希望を抱いた、様々な表情が思い出され、利用者にとっても職員にとっても、今ここで日々暮らしていることを、少なからず確認し実感する大切な機会でもあったと思います。

歌の力にのせて、心をひとつに『西駒郷の歌』が永く歌い継がれることを願っています。



保護者会 20 周年記念事業 記念碑 (平成元年 8 月 30 日)



西駒郷の歌の額 作曲者伊藤久紀氏寄贈 (昭和 53 年 10 月)
(管理棟第一会議室)

* 参考

昭和49年度のその他の事業

- ・西駒郷のシンボルマークの制定
- ・第4回全国心身障害者コロニー連絡協議会開催
全国から18のコロニーが西駒郷へ集まった。
- ・第2回長野県精神薄弱児者施設中南信地区体育大会開催
西駒郷の体育館とグラウンドに7施設263名（利用者・職員）が卓球・施設対抗リレー・相撲、マラソン等の競技が行われた。
- ・第1回所内交換研修（各寮間で1週間・職員14人）の実施
- ・「生活指導の手引き」の学習会実施
- ・地元住民の施設に対する意識調査の実施

昭和49年度の主な利用者及び各寮等の動き

- ・利用者 469人（職員188人）
内訳：ひまわり49、あすなろ172、生業部248
- ・新入所児・者28人（内訳：家庭から23、施設4、病院1）
- ・退所児・者29人（内訳：就職へ11、家庭9、他施設4等）

あすなろ寮

- ・開所以来7年間で長期居住化傾向が顕著となる。
- ・西駒郷全体やあすなろ全体の行事から、小集団での行事・外出・調理実習等が増加した。

ひまわり寮

- ・寮専用のプール完成
- ・初めての駒ヶ岳登山に10人参加

訓練部（現駒ヶ根日中支援課）

- ・専科に陶芸を導入
- ・木工科で職業訓練としての木彫りに本格的に取り組む。

さつき寮

- ・駒ヶ根市早起き野球に職員と利用者の混成チームで初参加
- ・高齢化に対応した体力テストの実施

所外作業科

- ・11事業所に38人の実習利用者が、昭和48年来のオイルショックの影響により、年度末には5事業所に12人と大幅な減員となる。